

## 駐大連北九州市経済事務所

◆所長 田代 昇三 ◆副所長 古賀 直樹  
◆副所長 呂 俐 ◆主任 劉 振傑  
田代 e-mail: yumeiyasu4411@yahoo.co.jp

## 4年に1度の中国全国運動大会が大連で開催！

2013年8月31日から9月12日にかけて遼寧省瀋陽をメイン会場として中国の国体にあたる中国全国運動大会が開催されました。瀋陽がメイン会場ではありますが、大連においても野球、テニス等の競技が行われ、連日白熱した戦いが繰り広げられました。

2013年8月31日から日本でいう国体に相当する中国全国運動大会（以下「全運会」）が遼寧省瀋陽をメイン会場として開催されました。この全運会は4年に1度開催されオリンピックの翌年に開催されます。スポーツ大会の規模としても中国最大規模であり、そのレベルも国内最高峰となっています。この全運会はオリンピック等の世界大会で活躍する人材の選考会でもあることから各競技の選手たちにとっては、世界への登竜門となっています。さすがに、今後オリンピック等の世界大会に出場し、国家の宝となるであろう選手の集まる大会だけあって、その選手や観戦に来る要人たちへの配慮もぬかりがありません。大連市環境保護局は全運会の開催期間中の市内の環境管理（大気汚染対策等）のため市内の企業1,156社に対し検査を実施。142社の汚染物質を排出する企業には生産停止を要求し、火力発電・セメント・石油化学・鉄鋼等環境負荷の高いと思われる業界246社に対し生産の抑制を促すといった力の入れようです。そのおかげか、開催期間中は大連の空がいつもより青く澄み渡っている様でした。

瀋陽市は全運会のメイン会場に指定されており、全競技の6割と開会式・閉会式が開催されることとなっており、開催に向けたインフラ整備が急ピッチで進められました。具体的には4本の環状線、地下鉄、橋梁、541本の道路修繕や立体交通の整備が3年に亘って行われ、実際に私が瀋陽に行った際には、至る所で工事が行われていました。



▲大連の新設競技場の外観



▲大規模なサッカー競技場



▲水泳の競技会場

遼寧省での開催であるため大連においても、野球、テニス、水泳、馬術、ボートといった14種目の競技が開催され、そのための競技施設{17の競技場うち新築11、改修6}が大連でも建設されました。その競技場の規模も福岡のヤフオクドームが2つ分位ある様な大規模なもので中国の人口の多さと

箱モノを作る際のスケールの大きさを改めて実感するとともに、わずか2週間足らずの大会に合わせてこれだけの規模の施設を作り（もちろんこのためだけには無いとは承知していますが）、これからの維持管理費はどう捻出するのだろうかという素朴な疑問も浮かんできます。また、サブ会場の大連ですらこの規模ですので、メイン会場の瀋陽市は……

と考えると少し空恐ろしい気がします。

実は、今お伝えした話題ではとある北九州市内企業も関係があります。この大規模設備のメンテナンスを一括受注したのが、北九州市に拠点を置くビルメンテ企業です。日系企業独自のきめ細やかなサービスと大連市政府に強いパイプを持つパートナーという強みを活かし、日中関係の冷え込んでいる現在でも国家の一大イベントにもしっかりと食い込みビジネスを展開されています。



▲女子体操（平均台）決勝の様子



▲授賞式にて選手にメダルを贈呈



▲男子体操（跳馬）決勝の様子

あと一つ、お伝えをさせて頂くと、上の授賞式で選手にメダルを贈呈している女性なのですが、この方は干涛さんという方で現在は、大連市外事辦公室の主任をされています。それと同時に全運会の大連組織委員会の副秘書長（副秘書長といっても秘書長を務める大連副市長の次席であり、担当者としてはトップ）を務められました。外事辦公室とは外国との調整・交渉を行ったり、出入国の管理を行う政府の機関です。仕事柄、当事務所とも繋がりの深い方なのですが、日本にも留学経験があり日本語も堪能で、非常に友好的な方なのでこの様な方が中国国内で出世をして日中関係の改善に寄与することを願ってやみません。